
少女戦争～少女権利 裏章～

Circlecafe

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

少女戦争〜少女権利 裏章〜

【Nコード】

N4152P

【作者名】

Circlecave

【あらすじ】

以前書いたシリーズの裏の話になります。

そちらから先に読んでいただくと嬉しいです。

▼シリーズ一覧はこちら

<http://ncode.syosetu.com/s0896a/>

序話（前書き）

以前書いたシリーズの裏の話になります。

そちらから先に読んでいただけると嬉しいです。

少女権利 > <http://ncode.syosetu.com/n5330/>

少女崩壊 > <http://ncode.syosetu.com/n1572/>

少女反逆 > <http://ncode.syosetu.com/n1347/>

序話

最前線に爆撃機が到達した。

それ許したという事は、死を覚悟しなければならない。

目視できる距離で、その爆撃機の腹部が大きく開く。

兵達は死を覚悟する、あるいは、それから逃れようと、無駄にあがき、そして絶望する。

しかし、爆撃機がばら撒いたのは、弾薬でも燃え盛る炎でもない。

軍人達の視線は止まる。

幼い少女が、爆撃機の開いた腹から無数に落ちてくる。

機関銃がうなり、彼女達を空中で捉える。

落とされる少女達の幾人かは、銃弾に当たること無く地面に着地し、その速度で破裂する。

人を、空挺部隊でもないのに中空でばら撒く等、どういう事なのか。ここは戦場、空爆による陥落では無い事が、一同の心を支え、考える余地も無いほどの攻撃態勢を作らせる。

爆撃機が旋回し、そのエリアを離れていくと、不可解な状況は、不可解な答えを出す。

地面で真っ赤に液化化した少女達だったもの。

銃のスコープの向こう側
まるで水が盛り上がるように
肉の塊、骨の破片が呼び合うように
形成されていく”体”

皆目を疑う。

身じろぎ一つどころか、声も出ない。

粉碎された体がまるで逆再生のように元に戻る。

訓練された一人の兵は、その危険をはらんだ少女達を撃ち貫くが
いとも簡単に、その射撃の命中で失ったはずの傷が塞がる。

全てが同じ、長い黒髪、黄色い目の少女達。

第一話

「なんだこれは……」

生体兵器、機密兵。ある程度は理解しているつもりだ。それでも開口一番にそう言ってしまうような今の状況。

液体を満たしたポッドから起き上がる彼女の名は、レイリ・ミドラ。28歳にして一尉の階級を持つ、優秀な軍人だ。

戦場に突如現れた、レイアニア共和国の”不死の化け物”その対策として、生体兵器としての実験台に志願したのは覚えてい

る。志願とはいつでも、立場的に選択権は無い。

ならば素直に同意する、レイリ・ミドラはそんな女性だった。

「おはようございます」

研究員の一人が目覚めたレイリに挨拶をする。ポッドから体を起こし、冷たいタイルに足をつける。

「……」

レイリの目線よりだいぶ上にある研究員の顔。

「……説明していただけますか？」
聞く。

小さな手、華奢な腕。

鍛え抜かれた自分の体は覚えている。
これではまるで幼子。

「……………」

ポッドの開いたガラスの蓋に自分の姿を映す。
そこに映るのは、遠い記憶にある、小さな頃の自分。

「レイリ・ミドラ一尉、そなたには特別な任務についてもらう
小さな体にあつらえた戦闘用の軍着。

今まで特別じゃない任務などあっただろうか。

「左目の効能のテストは君の意識の無い時に行わせてもらった」
再生される動画。

気分の悪い内容がそこに映し出されている。

研究員に囲まれた、幼くなつてしまった自分。

その腕が意識無いまま、無骨な器具で引きちぎられる。

「これは…」

その腕は、元に戻る。傷後一つ無く。

つづいて腹、飛び出した腸が、しばらく見ていると体内に収納される。

「そなたの回収してきた”レイアニアの不死”の目。素晴らしい科学だ」

流れるような金髪、赤を含んだ茶色い瞳。

しかし、左目だけは異様に強い発色の黄色い瞳。

「これで装備は全部です」

揃えられた、どれも一級の武器を身につける。

「ああ、ご苦労」

子供の視線とは低いものだ、と見上げるように周りを見る。

「眼帯は無いか？」

レイリが聞く。黄色い目を移植した、左目の視力は皆無。

明日は出立しなければならない。

手元の資料に目を通す。

衛生から撮られた、十字型に大量に並んだ巨大な建造物。

その写真はレイアニア共和国が、公式発表したもの。

世界に向け、投降を呼びかけた、あの首謀者ロナ・ハルドの演説。

写真に映る、その建物の名前は”マリアシステム”

そこにある不死の秘密を持ち帰る。それが今回の任務。

表向き、レイリの国は、いち早くレイアニア共和国に降伏宣言をした。

これは秘密裏の任務。

レイリに揃えられた衣服、装備の全てが、今だレイアニア共和国と交戦する他国のものである事がそれを示す。

幼い自分の姿を鏡に映す。

聞けば、これは移植した不死の目の副作用だという。

レイリ以前に別の体を使つての実験映像も見た。

萎縮するように幼くなる体。

男性の実験体はそのまま歪な肉塊に変貌した。

女性の実験体は幼い体で、その動きは止まったが、その後の”再生”を確かめる実験の結果、心臓をくり出したとき絶命した。

レイリが、大人の体で相手をしてきた、”レイアニアの不死”達は

心臓だろうが、火薬で粉微塵にしようが復活した。

『科学ではなく神話の中の生き物のようだ』誰かが、そう形容した。現に世界のいくつかの国、レイリの国の国民も信仰のような支持をレイアニアに向けている。

「……………」

眼帯を外す。

黄色い瞳。人の色ではない。

レイリのこの目の持ち主は、取り戻そうと、どこまでも追ってきた。軍部地下室、その彼女は、粉々に粉碎し続ける機械の中に収容した。

今回の隠密行動の意味はそう大したものではない。

不死の秘密を手に入れる事等、不可能に近い作戦だ。

きつと自分は、この身を包む軍着の国、レイアニア共和国に反する国の、殲滅する為の理由作り。

レイリが捕縛され、そうすればレイアニア共和国にはより大義名分が与えられる。

ほんの小さな追加の為に自分は死ぬ。

「ふう……」

部屋に置かれた上等な煙草に火をつける。

どうせ元よりいつ死ぬかわからない軍人。

今回は死が確定しただけ。

ゆらめく煙。

少し清清しささえある。

「はは……」

誰もいない部屋で思わず笑いがこみ上げる。

もし、ここでこの話を断っていれば、自分は殺されていたんだと。

任務中に逃げ出すか。

一瞬そう考えるが、安息の地等、今の世界情勢で存在しないだろう。民間に紛れて、世界に身を委ねるか。それもまたいいと思う。

翌日、ヘリで移動する中、レイリに告げられるひとつの事。後方を飛ぶもう一台のヘリは、レイリの目の持ち主の不死を載せている事。

レイリは国境近くで降ろされる。

後方のヘリが、大きな箱を、少し離れたところに落とす。中身は片目の不死者。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4152p/>

少女戦争～少女権利 裏章～

2010年12月10日22時55分発行